

令和元年度訪問看護講師人材養成研修会 報告

2020 年 3 月 18 日

訪問看護ステーション きんもくせい

荒牧 康子

日時： 令和元年 11 月 29 日(金) 9:00～16:30

場所： CIVI 研修センター日本橋

主催： 一般社団法人全国訪問看護事業協会

熊本県参加者：3 名(訪問看護師 2 名・県職員 1 名)

※各県から 2～3 名の参加で合計 125 名の参加

1. 事前課題

- ① 「自地域における訪問看護の現状を把握し課題を考察する」
- ② 「事前課題に対して、訪問看護師の普及を量的および質的に図るためにはどのような研修や事業を展開すればよいか考える」
- ③ 「訪問看護入門プログラムを学習する」

参加者で情報共有、意見を出し合い自地域の課題として事前に提出した。

自地域における課題	・訪問看護ステーション数は増加傾向にあるものの、小規模の訪問看護ステーションが約 7 割を占めている。また、中山間地域を中心に未設置の市町村が存在し、偏在が生じている。 ・在宅での療養を希望する県民が 46.3%であるのに対し、実際に在宅で最期を迎えることが出来ると考える割合は 6.2%、実際に在宅で亡くなる割合は 9.3%と、需要と供給量のバランスが取れていない。 ・訪問看護利用率が全国平均を下回っている。
自地域における必要な研修	・訪問看護従事者を対象とした研修の充実（リスク対応（災害、ハラスメント、感染症等）、退院調整や看取りへの対応、最新の知識・技術等） ・看護管理者を対象とした研修の充実（より質の高いケアを安定的に提供するため、①地域包括ケアシステムへの貢献、②ケア提供体制づくり、③ケアの質保証等をテーマにマネジメント能力を高める） ・県民を対象とした訪問看護の利用促進のための講演会
研修会の種類 (講演・シンポジウム・グループワークなど)	・従事者及び管理者向け：講義、グループワーク (研修会とは別にアドバイザーによる現地支援を実施) ・県民向け：講演会
開催の頻度	・従事者及び管理者向け：数日間のコース×年 1～2 回（必要に応じて複数地域での開催を検討。他研修と重ならないよう計画的に実施。） ・県民向け：年 1～2 回（必要に応じて複数地域での開催を検討）
上記、研修を導き出した	本県では訪問看護ステーション、訪問看護従事者及び訪問看護利用者の何れも増加傾向にあるものの、小規模の訪問看護ステーションが約 7 割を占め

根拠	ており、従事者の確保が喫緊の課題である（平成 29 年度に行った調査では 49.6%の事業所が、訪問看護職員が不足していると回答）。 人材を確保するには、リスク対応を行って訪問看護を安心して実施できる環境を整備することや経営の安定化を図ることが不可欠であるため、従事者、管理者等の階層別に求められる知識、技術の提供を行う。 また、小規模の訪問看護ステーションでは人員に余裕がなく研修等への参加が難しいという問題を抱えているため、同内容の研修を複数地域で開催する、アドバイザーを派遣し現地支援を行う等の、選択肢を増やす工夫も必要である。 さらに、訪問看護利用率を向上するためには、訪問看護に関する県民の認知度を高めるための取り組みも求められる。
----	---

2.研修内容

【総論 1】地域包括システムと訪問看護

島田 志帆先生(厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室長)

到達目標

- ・地域包括ケアシステムにおける訪問看護の現状を理解できる

内容

- 1) 本研修の位置づけと役割
- 2) 在宅医療・訪問看護の基礎的なデータ

【総論 2】在宅医療・介護における行政と訪問看護の連携の実例

茂木 光代先生(神奈川県健康医療局保険医療部医療課課長代理)

到達目標

- ・在宅医療・介護における行政の役割を知り、行政と訪問看護との連携の必要性を理解する
- ・地域における訪問看護の量的・質的確保に関する課題や解決策について行政と連携する必要性を理解できる
- ・地域における最新状況や情報の収集方法、窓口等を知ることができる

- 1) 在宅医療・介護における行政の役割
- 2) 地域における訪問看護の量的・質的確保に関する課題整理と解決について行政と訪問看護が連携する必要性・実際
- 3) 在宅医療・介護のために地域で行っている会議の種類及び役割
- 4) 地域における最新状況や情報の収集方法、窓口等
- 5) 地域における訪問看護、在宅医療に係る事業

【総論 3】訪問看護の対象者の理解

佐藤 美穂子先生(公益財団法人日本訪問看護財団常務理事)

到達目標

- ・高齢者、小児、精神科など、訪問看護の対象者について理解し、地域における研修会の企画に活用する事ができる

内容

- 1) 地域包括ケアシステムにおける訪問看護の対象
- 2) 医療的ケア児を含む小児の対象について
- 3) 精神科疾患のある訪問看護の対象について
- 4) 地域において研修会を開催する時のポイント
- 5) 制度、社会保障、連携先などの違いについて

【各論 1】「テーマ」訪問看護の価値を伝える

佐藤 直子（中央パートナーズ株式会社 東京ひかりステーション）

到達目標

- ・訪問看護の価値を他者に伝える事ができる

内容

- ・訪問看護の価値や魅力について気づきのロールプレイ

- 1) 訪問看護のメリット
- 2) 訪問看護ではどのような事をするのか
- 3) 訪問看護が保障するもの
- 4) 事例を用いて言語化できるようにする

【各論 2】平成 30 年度受講者活動報告

黒木 たまき（社会福祉法人恩賜財団済生会支部福井県済生会訪問看護ステーション管理者）

到達目標

- ・平成 30 年度訪問看護師人材養成研修会からの学びを活かした研修会開催の実践報告から
自地域における研修会開催に役立てる事ができる

内容

- 1) 平成 30 年度訪問看護師人材養成研修会からの学び
- 2) 研修会の準備から開催までの実際について

【総論 4】学習支援と教育

西田 朋子（日本赤十字看護大学看護教育学准教授）

到達目標

- ・人材育成とは何か、教育対象の理解を深める方法を学び、自地域における訪問看護の人材育成に役立てる事ができる

内容

- 1) 人材の育成とは何か、人を教育する事の基本的な考え方
- 2) 教えるということの考え方について
- 3) 成人学習者に対する動機付け
- 4) 能力の開発と G I O, S B O（組織目標、個人目標）について

【各論 3】グループワークの進め方

「テーマ」自施設における訪問看護師の量的拡大及び質の向上のための研修プログラムの開発

山田 雅子先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科教授）

到達目標

効果的にグループワークを進行する事ができる

内容

すすめ方

- 1) 課題の抽出・共有
- 2) どの課題に取り込むか
- 3) 研修会の目標及び目的の設定
- 4) 対象者を決める
- 5) 具体的な内容
- 6) 講師の選定
- 7) 自分が講師となったらどのような資料を準備するか

【グループワークの内容】

グループは、徳島県の3名と合計6名で行った。

テーマを人材育成とし議論を行った。

人材育成は、次世代を育てる事が大切であり、若い世代へ在宅・訪問看護・個別性を知ってもらう事が必要。高校生や看護学生には既に働きかけているが、もっと年齢を下げ、かつ訪問看護師が地域に出向き、命の大切さ、誰でも住みやすい地域づくりをするべきだと話が発展した。

他のグループでも、人材育成・研修についてのテーマが多かった。

～研修を終えて～

研修に参加させていただき、改めて、在宅医療の中でも訪問看護が重要な役割を担っている事、健康寿命を過ごす事ができるような予防的な関わり、地域密着な関わりの実感した。

しかし課題が多く、全国では都市部と地方の地域の特徴がある事を学んだ。

熊本県では、①在宅看取りの需要と供給バランスがとれていない②訪問看護利用率が全国平均を下まわっている③訪問看護師の人材確保が課題である。

そのためには、訪問看護師が安心して仕事ができる環境調整、従事者や管理者の質の向上の為の研修の充実、県民へ訪問看護を周知する等の取り組みが必要である。

訪問看護管理業務に従事しながら、課題について意識し活動していきたい。

今回、研修に参加させていただき、ありがとうございました。